

## Ⅳ 水産海洋研究会昭和42年度春季シンポジウム

海底地形，DSL生物，海流について

共催 { 水産海洋研究会  
日本海洋学会

日時 昭和42年4月10日(月)午前9時～午後5時30分

場所 東海区水産研究所第1会議室

コンピーナー 宇田道隆 (東京水産大学)

### 話題および話題提供者

漁礁、海底谷と資源生物	新野 弘 (東京水産大学)
日本海、西日本海域の海底地形関連漁場と海況	下村敏正 (西海区水産研究所)
一定点における水温と魚群遊泳層の日変動について	川口哲夫 (鳥取県水産試験場)
海底地形と海況、波浪	吉田耕造 (東京大学理学部)
DSLと漁場生物	鈴木恒由 (北海道大学水産学部)
SL, DSL生物とその採集について	大森 信 (東京大学海洋研究所)
長崎丸の魚群探知機による漁場調査	柴田恵司 (長崎大学水産学部)
超音波及び水中テレビによる海底と漁場生物調査	西村 実 (水産庁漁船研究室)
音響による漁場生物探査と問題点	間庭愛信 (水産庁漁船研究室)
各社(海上電機、光電、産研、古野)デイスカッター	
自由討論、問題点要約、宇田道隆	

なお、出席されなかつたが、児島俊平(島根県水試)、浜島謙太郎(長崎県水試)両氏は原稿を後送されたので併せ掲げた。

### 1 漁礁、海底谷と資源生物

新野 弘 (東京水産大学)

漁礁を大別して、(1)構造的漁礁、(2)火山性漁礁の2系統とする。(1)では日本島弧に平行ないくつかの断層、島礁が雁行性構造 (Echelon Structure) を示し、1つ1つのブロックが傾動を示す。日本海に多数漁礁列が見られ、深さ、底質など特有な分布を示す(大和堆、北大和堆)。また、駿河湾の「中ノ瀬」、「石花海(セノウミ)」、「金洲ノ瀬」、伊豆東～南沖の「瓢箪瀬」、「向い瀬」、「銭洲」等に、北海道襟裳堆、オホーツク大和堆等が同様雁行配列をなす。理論上琉球アーク、小笠原アークも同様分布している。(Korean Plateau にもあ